

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスわおん		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりの特性やニーズに応じて、個別支援計画に基づいた支援を行っている。専門職との連携や個別療育を取り入れ、発達段階に応じた関わりを実施している。	アセスメント情報をもとに個別支援計画を作成し、定期的に見直しを行っている。専門職と連携しながら支援内容を共有・反映し、個別療育や小集団支援を組み合わせ実施している。また、支援の様子は記録や動画で共有し、関わり方の統一を図っている。	・専門職の視点を他職員へ共有し、全職員で専門性を高める体制づくり ・個別療育の内容を体系化し、誰でも一定水準で実施できる仕組みの構築 ・記録や動画の活用を強化し、支援の振り返りと改善につなげる
2	安心して過ごせる環境づくりに加え、季節行事や外出、日々の活動を通して多様な経験の機会を提供している。楽しみながら社会性や生活力の向上につなげている。	季節行事や外出活動を計画的に実施し、多様な経験の機会を提供している。活動内容は利用者の興味関心や発達段階に応じて調整し、成功体験につながるよう支援している。また、安心して過ごせるよう、日々の関係づくりや声かけを大切にしている。	・活動プログラムのバリエーション拡充と計画的な実施 ・利用者主体で選択できる活動の導入（選択機会の確保） ・地域資源（公園・施設等）を活用した外出機会の拡大 ・活動のねらいや支援ポイントを職員間で共有し、質の向上を図る
3	日々の記録や送迎時の引き継ぎ等を通して、職員間で利用者の様子や支援内容を共有している。チームとして一貫した支援ができる体制づくりを行っている。	日々の記録や申し送りを通じて、利用者の様子や支援内容を職員間で共有している。送迎時の保護者とのやり取りも共有し支援に反映している。また、会議等で支援方針のすり合わせを行い、誰が対応しても一定の支援ができるよう関わり方の統一を図っている。	・ICT（記録・共有ツール等）の活用による情報共有の効率化 ・定期的なケース会議の実施による支援方針の統一 ・新人職員やパート職員への支援内容の引き継ぎ体制の強化

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって支援の視点や関わり方に差が生じることがあり、支援の統一に課題がある。経験や知識の差によって対応にばらつきが出る場面がある。	職員の経験年数や専門性の違いにより、支援に対する理解や視点に差が生じていることが要因と考えられる。また、支援方法の共有や統一の機会が十分でないことも影響している。	支援方法や関わり方についての共通理解を深めるため、定期的なミーティングやケース会議を実施する。また、専門職の視点や支援事例を共有し、全職員のスキル向上を図るとともに、支援内容の標準化を進める。
2	日々の記録や申し送りは行っているものの、情報共有のタイミングや伝達方法にばらつきがあり、必要な情報が十分に行き届かない場合がある。	記録や申し送りの方法が職員ごとに異なっていることや、共有する場や時間が限られていることが要因と考えられる。また、業務の兼ね合いにより、情報共有が後回しになる場面がある。	情報共有のルールや方法を整理・統一し、記録や申し送りの質を高める。あわせてICTの活用を進めることで、必要な情報が迅速かつ確実に共有される体制づくりを行う。
3	利用者数や職員配置の状況により、十分な個別対応の時間を確保することが難しい場面がある。個別支援と集団活動のバランスに課題がある。	利用者数や職員配置の状況により、集団対応を優先せざるを得ない場面があることが要因と考えられる。また、業務全体の中で個別支援に充てる時間の確保が難しい現状がある。	業務の整理や役割分担の見直しを行い、個別支援の時間を確保できる体制づくりを進める。また、小集団での支援を取り入れることで、個別のニーズに対応しやすい環境を整える。